

1 「子ども☆ミライ会議」2040年の八王子～

八王子はわたしたちがつくるまち～の実施について

本市では、平成13年（2001年）2月、「子どもの権利条約」の考えを取り入れ、「八王子市子どもすこやか宣言」を行い、それに基づいた「子どもの参加する権利」を具現化する会議を実施してきました。

子どもの権利を大切に、「子ども会議」、「子ども議会」、「子どもミーティング」「子ども意見発表会」、「子ども☆ミライ会議」と参加対象や形式を変えて会議を開催してきました。

平成29年度（2017年度）に市制100周年記念事業の基幹事業の一つとして「子ども☆ミライ会議」で、子どもがミライへの提言『八王子はわたしたちがつくるまち』（以下、『ミライへの提言』という。）をまとめました。

この『ミライへの提言』や若者施策の充実の視点をもって、本市の第3次子ども育成計画が策定されていました。



【宣言の発表の様子】（平成29年度）

令和4年度（2022年度）の「子ども☆ミライ会議」は、令和元年度（2019年度）まで中学生のみで行われていた「中学生サミット」の名称が改められて、小学生も参加した「はちおうじっ子サミット」の代表中学生も参加をして開催しました。「はちおうじっ子サミット」の小学生と中学生、「子ども☆ミライ会議」の参加者の小学5年生から高校生とサポート役の若者、児童館を利用する子ども（0歳から18歳）とボランティアの若者など、多くの子どもの意見と若者の意見を聴くことが出来ました。

「子ども☆ミライ会議」では、『ミライへの提言』からテーマを拡大し、「2040年の八王子は、わたしたちがつくるまち」として、子ども企画委員がテーマを選定し、そのテーマに沿って市長・教育長に提案しました。

子どもは、「私たちがつくる持続可能な世界」というSDGs（2030年までに世界が解決すべき目標を定めた持続可能な開発目標）を意識してミライの八王子について提案をまとめて発表しました。子どもの意見をまちづくりに活かしていくことが大切です。「子ども☆ミライ会議」だけではなく、本市では、遊びを通して、子どもがありのままで過ごすことができる児童館において、子どもの意見が見える形にする取り組みを行っています。

その児童館の職員が、「子ども☆ミライ会議」のファシリテーター役となり、学生サポーター、会議の参加経験者の社会人アドバイザーが支援し、年齢や個性が多様な子どもたちが、意見表明をすることが出来ました。

2 ミライへの提言『八王子はわたしたちがつくるまち』と子どもの意見

(1) ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」

「八王子はわたしたちがつくるまち」

- ① 子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち
- ② 犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち
- ③ 元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち
- ④ 自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち
- ⑤ 商工業によって栄え、交通が便利なまち

平成 30 年 2 月 4 日 子ども☆ミライ会議 子ども大使一同



(2) 提言に対する子どもの意見

① 「子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち」

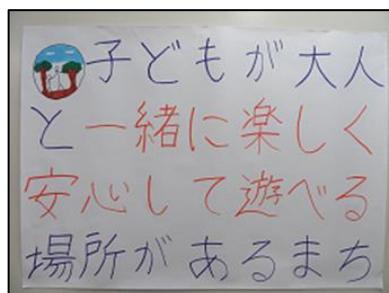
大人も子どもも安心して遊べる大きい公園、アスレチック公園があるといいと思います。

八王子市にはたくさんの自然があり、公園もたくさんあります。

その自然を最大に活かして、公園の中に図書館や大人と子どもと一緒に過ごすことのできるカフェやアスレチックなど、体を自然の中で動かすことのできる公園があるといいと思います。

私たちは、子どもたちが楽しく安心して遊べるようにするため、大人に頼るだけではなく、時間がある時には公園で遊んでいる子どもの見守りに取り組みます。

また、子どもは自分の近くの公園しか知らないので、八王子市の公園や自然のアピールを積極的にしてほしいと思います。

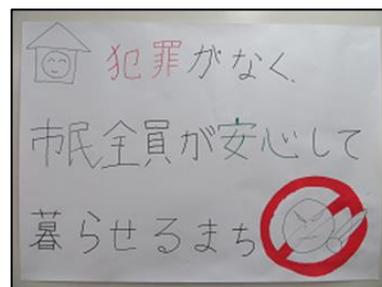


② 「犯罪がなく子どもが安心して暮らせるまち」

不安な中では、子どもは地域に自由に出ていき、地域の大人と交流することができません。

そのために私たちは、地域の危険なところを知り、それを地域の人に伝え、子どもたちへの呼びかけやパトロールに地域の大人と一緒に取り組みます。

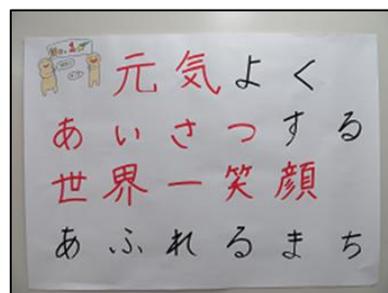
また、子どもから高齢者までが、段差をなくして、スロープにするなど住みやすい環境を作るとともに、顔を知り互いに交流できる市民の憩いの場を作してほしいと思います。



③ 「元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち」

八王子のまちは、人と人との交流が大切にされるまちになります。そのために私たちは、はずかしがらずに地域の人に、「おはようございます」などとあいさつをして、自分から積極的に人との交流を大切にすることに取り組みます。

また、人の交流と笑顔があふれるように、新しいことを始めるのではなく、八王子にある豊富な資源を有効活用して、映像や情報誌でPRし世界に発信します。



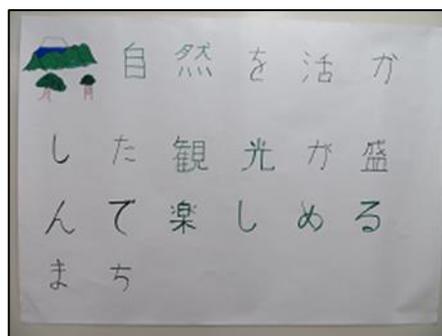
④ 「自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち」

自然を活かし、観光で人を他地域から呼んでまちの活性化を図ります。

そのためには、子どもの目線で、八王子の良いところや歴史深い街並み、著名人、緑豊かな自然を全面的に伝えるために、プロジェクトを組んで活動に取り組みます。

そして、観光が盛んになるだけではなく、子どもから高齢者まで、安全に過ごせるバリアフリーが当たり前のまちになります。

また、自然を活かしたきれいなまちであり続けるために、クリーン活動、自主的なごみ拾い、ごみの分別をしっかりとするなどして環境を壊さない活動を行うことに取り組みます。



⑤ 「商工業によって栄え、交通が便利なまち」

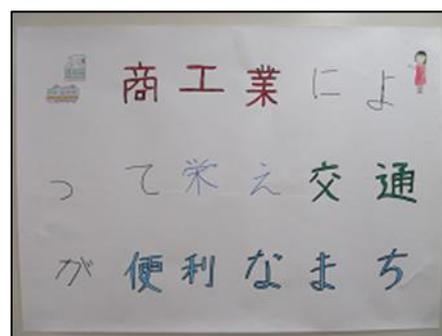
八王子のまちは、子どもと企業が深くかかわる機会があるまちになります。

そのために私たちは、公共交通機関を利用し、八王子市の商店街で買い物をすることに取り組みます。

また、公共交通機関の発達子どもや高齢者の移動に有効で、人と人の交流が図られることにもつながります。

私たちが、地元の産業や中小企業の技術力を子どもたちに宣伝し、さまざまな職種の人と話しをして将来の道を考えていきます。

生活と仕事が密着したことにより住みよいまち、住み続けたいまちになると思います。



3 令和4年度（2022年度）の「子ども☆ミライ会議」のスケジュール

5月16日（月）～ 6月14日（火）	・子ども企画委員募集 ・学生リーダー・アドバイザー募集
申し込み完了～ 6月26日（日）	・自宅事前学習 「2040年の八王子がどのようなまちであったらよいか」 「どのようなテーマで話してみたいか」
6月16日（木）	・学生リーダー、アドバイザーオリエンテーション開催
6月26日（日）	・第1回子ども企画委員ワークショップ開催
6月26日（日）～ 7月31日（日）	・自宅事前学習 「グループが担当するテーマについての提案・意見」
7月31日（日）	・第2回子ども企画委員ワークショップ開催
8月28日（日）	・「子ども☆ミライ会議」開催
令和5年（2023年） 1月29日（日）	・「サテライト 子ども☆ミライ会議」開催

4 参加者募集（子ども企画委員）

小学5年生から高校生世代までを対象に、ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」を具現化するために、実践案を検討し発表をする子ども企画委員を募集しました。

22名（小学5年生8名、小学6年生6名、中学1年生2名、中学2年生5名、高校3年生1名）の参加がありました。

【子ども☆ミライ会議】2040年の八王子～八王子はわたしたちがつくるまち～



「八王子市子どもすこやか宣言」の推進事業の一環として、子どもの声や意見を受け止め、市政に反映するために「子ども☆ミライ会議」を開催します。
 平成30年（2018年）2月4日に、市制100周年記念事業として開催した「子どもミライフォーラム」で子ども企画委員が、子どもミライ提言を発表しました。
 2040年の八王子へ向けたまちづくりについて、市長・教育長に提案を行う小学5年生から高校生世代までの子どもたちを募集します。

子どもミライ提言『八王子はわたしたちがつくるまち』

①子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち
 ②犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち
 ③元氣よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち
 ④自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち
 ⑤産工業によって栄え、交通が便利なまち



平成30年（2018年）2月4日 子ども☆ミライ会議 子ども大使一同

【プログラム】

① 令和4年（2022年）6月26日（日）第1回ワークショップ
 時間：午後2時から4時 会場：市役所804会議室
 ●オリエンテーション～八王子市について学ぼう～
 ●意見交換～2040年の八王子について考えよう～

② 令和4年（2022年）7月31日（日）第2回ワークショップ
 時間：午前10時から正午 会場：市役所802会議室
 ●提案書の作成～本番で発表する発言をまとめよう～

③ 令和4年（2022年）8月28日（日）リハーサル、「子ども☆ミライ会議」本番
 時間：午前11時から午後3時 会場：市役所801会議室
 ●リハーサル、「子ども☆ミライ会議」本番～市長・教育長への提案をしよう～

【発表の様子】



【ワークショップの様子】



【対 象】 小学5年生から高校生世代まで
【定 員】 20名（先着順）
【申込期間】 令和4年（2022年）5月16日（月）から6月14日（火）
【申込方法】 川口児童館に電話連絡し、「子ども☆ミライ会議申込書」を取得し、提出してください。
【参加費】 無料（会場の市役所までの交通費は自己負担となります。）
【その他】 ●ワークショップで使用する筆記具と1回の参加につき500円分の図書券を用意します。
 ●できるだけすべてのプログラムに参加してください。
 ●プログラムの詳細について、申込み後に自宅に送付いたします。
 ●プログラムに変更がある場合があります。

【申込み・問合せ先】
 八王子市子ども家庭部青少年若者課川口児童館
 〒193-0801 八王子市川口町3974
 TEL 654-4757 / 070-1276-9229 FAX 654-4757

【子ども企画委員募集案内】

5 第1回子ども企画委員ワークショップの様子

令和4年（2022年）6月26日、小学5年生から高校生までの子ども企画委員22名が参加し、市役所会議室で第1回子ども企画委員ワークショップが開催されました。

今年度のワークショップには、子ども企画委員を手伝う学生リーダー・アドバイザーも参加しました。委員会の冒頭では、青少年若者課長が、子ども企画委員一人ひとりに「子ども企画委員カード」を授与しました。

子ども企画委員は、これまでに開催されてきた「子ども☆ミライ会議」について学びました。

次に「2040年の八王子が、どのようなまちであつたらいいか」というテーマの下、4つのグループに分かれ、話し合いました。

子ども企画委員は各自がテーマについて事前に宿題として自分の意見を書きました。それを基に各グループで意見をたくさん出し合いました。

みんなが同じように「こうなってほしい」と思っている意見もあれば、住んでいる地域やこれまでの経験によって他の人には思いもよらない意見もありました。自分の意見を伝えるだけでなく、他の人の意見から刺激を受けたり、話し合うことで新しい意見が出たり、とても充実した時間でした。限られた時間で意見をまとめ、各グループが話し合った内容を発表しました。

各グループの意見を子ども企画委員全体で共有し、委員全体でテーマを「安心・安全」、「遊び場」、「交流・体験」、「環境」に絞りました。

市長、教育長への提言のためのグループ分けも、子ども企画委員で行いました。自分がどのテーマに関心があるのかだけでなく、発表時間やグループの人数なども考えて、担当するテーマを考えました。



【ワークショップの様子】



【グループワークの様子】



【発表の様子】

6 第2回子ども企画委員ワークショップの様子

令和4年（2022年）7月31日、子ども企画委員17名が参加し、市役所会議室で第2回子ども企画委員ワークショップが開催されました。

第2回のワークショップでは、「子ども☆ミライ会議」本番に使用する市長、教育長への意見発表用の原稿をつくり上げます。

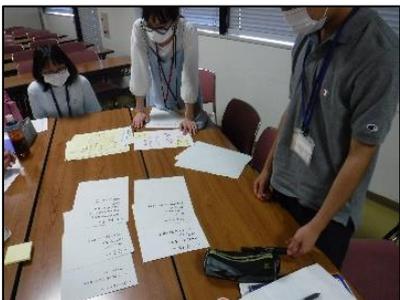
子ども企画委員は前回の内容を振り返り、どうやって原稿を作るのかを学んでから、第1回のワークショップで決めた4つのテーマ「安心・安全」、「遊び場」、「交流・体験」、「環境」のグループに分かれて作業を開始しました。

子ども企画委員は担当するグループのテーマについて、自分の提案を事前に宿題として書いてきました。

まずグループで自分の意見を発表し、他のメンバーの意見を聴きました。限られた時間で意見を発表するためには、みんなの意見をまとめなければなりません。どんな意見があったのか確認をしながら、話し合いをしました。



【話し合いの様子】



【原稿作成の様子】

それぞれのグループで、どうしたら自分たちの意見をしっかりと伝えることができるのかを考え、工夫しました。メンバー全員の意見を取り入れるグループや、一人の意見に他のメンバーも関心を持ち深く掘り下げるグループなど、グループごとに特色のある発表内容になりました。

意見をまとめた後、会議本番のための発表原稿の作成と発表者の役割分担を行いました。「子ども☆ミライ会議」本番で各グループに割り振られた時間には限りがあります。自分たちの意見が伝わるよう、みんなで相談しながら原稿を作成しました。

学生リーダー・アドバイザーも子ども企画委員の意見を活かしながら、発表内容が形になるように助言をしました。

7 「子ども☆ミライ会議」

2040年の八王子～八王子はわたしたちがつくるまち～の様子

令和4年（2022年）8月28日（日）に、小学5年生から高校3年生までの21名が参加し、「子ども☆ミライ会議」を開催しました。

今年度は2040年の八王子がどのようなまちであったらいいか、ミライをイメージしながら、2回のワークショップで話し合いを重ねました。



【市長のあいさつ】

各子ども企画委員の意見を基に、学生リーダーやアドバイザーのサポートを受けながら「安心・安全～自転車の安心安全について」、「遊び場～公園の水飲み場について」、「交流・体験～体験学習をまとめる部署の設置と体験の機会を多く作ることにについて」、「環境～ポイ捨てをなくしてきれいな八王子へ」、の4項目について、グループごとに具体的な案をまとめ、市長・教育長に向けて提案をしました。



【グループ提案の様子】

子ども企画委員の発表後、市長・教育長との意見交換やフリップを使って、質問に答える場面もありました。子ども企画委員は、堂々と意見を発表し、「八王子をもっとすてきなまちにしたい」という熱い思いを伝えることができました。また、「はちおうじっ子サミット」の代表生徒も参加し、「おたがいスマイルになるために、思いやりの気持ちをもとう」をテーマに発表しました。



【集合写真】

8 「サテライト子ども☆ミライ会議」の様子

令和5年(2023年)4月にこども家庭庁が創設されることもあり、「こどもまんなか社会」を目指し、子どもの意見を尊重し、施策に反映させるように自治体の意識は高まります。

そこで、令和5年(2023年)1月29日(日)に、厚生労働省と一般財団法人児童健全育成推進財団の共催により、児童館を中心とした子どもの居場所における子どもの意見を尊重した事例について研さんする「全国子どもの健全育成リーダー養成セミナー」が開催されました。

その分科会に「サテライト子ども☆ミライ会議」として、子ども企画委員の代表が参加し、広島県三島市児童館、東京都目黒区平町児童館の子どもたちとオンラインでつながり、ファシリテーターの問いかけに対して、子どもたちが意見交換をしました。

参加した子ども企画委員は、「非常に緊張したが、自分の意見を言うことが出来た。もっと話したかった。」と感想を述べていました。

やり取りは、以下のとおりです。

1 普段は児童館をどのように利用していますか。

- ・学校の友達と卓球をしています。

2 自分の声は聴かれていると思うことはありますか。

- ・卓球のルールを工夫してみないかと提案され、話し合っ変えてみました。

3 普段関わっている児童館の人はどのような存在ですか。

- ・とてもやさしい感じがします。小学校はルールに従ってないと怒られる時があります。児童館はそうではないので、気楽で児童館の先生も、とてもやさしい。

4 児童館にもルールがあると思いますが、児童館のルールと学校のルールの違いはありますか。

- ・児童館には宿題はないし、持ってくるものなどが無いので、そうでないといかないということは少ないと思います。



【子ども企画委員の様子】

- 5 児童館に来て楽しいと言っていましたけどどのような活動がありますか。
- ・「子ども☆ミライ会議」に参加しました。児童館に利用している子どもも含めた子ども企画委員が、八王子市をどうするか検討し提案しました。月 1 回の計 3 回集まりました。
- 6 どうして参加しようと思ったのですか？
- ・学校にチラシが配られたのでやってみたいと思いました。
- 7 いろんなチラシが配られますが、どうして参加しようと思ったのですか。
- ・八王子を変えることなどを話し合うのは、なかなか出来ないのもので、ぜひ、やってみたいと思いました。
- 8 実際に参加して八王子市に声が届いたと思いますか。
- ・声が届いたかはまだ実感はありません。市長に提案するのですが、グループで発表するので、自分の意見が減ってしまうので、事前の自分の考えをたくさん持っていることが大事でした。そのほうが、自分の声が市長・教育長に発表するときに通しやすいと思いました。
- 9 ミライ会議のやり方は、非常に興味があります。いろんな子どもがいろんな興味をもって集まっているので、意見をまとめるのが大変だと思いますが、一人一個の意見を提案するのですか。全員で提案するのですか。
- ・第 1 回目で、あらかじめ各自考えてきた意見を付箋に書き出し、模造紙の上で同じ内容の付箋をまとめていき、参加している子ども自身でその中から 4 つのテーマにしぼり、テーマごとのグループに分かれて提案しました。
- 10 どんなことを提案しましたか。
- ・食品ロスを減らしたほうがいいのかと提案しました。
- 11 全国の児童館の中では、中高生の利用があるが、小学生と分けたほうがいいという意見がなどありますが、どう思いますか。
- ・児童館は 0～18 歳が利用することが出来ます。同じ年齢で遊んだり、違う年齢と一緒に遊んだりできるので、施設を分けたり、施設内で分けないほうがいいと思います。

9 子ども企画委員の提案意見

*子ども企画委員の提案原稿のまま記載しています。

(意見・提案一覧)

1 グループ	【安心・安全】自転車の安全・安心について <ul style="list-style-type: none">・自転車の専用道を増やすこと・カーブミラーを増やすこと
2 グループ	【遊び】公園の水飲み場について <ul style="list-style-type: none">・公園の水飲み場の数を増やすこと・水道の蛇口を使いやすくすること
3 グループ	【交流・体験】体験学習をまとめる部署を設置し、体験できる機会をたくさん作ることにについて <ul style="list-style-type: none">・市内の体験プログラムを総括する部署を作ること（チラシやHPの作成、体験の企画）・店舗での仕事体験や八王子の特徴を生かした体験会の内容の工夫をすること
4 グループ	【環境】ポイ捨てをなくしてきれいな八王子へ <ul style="list-style-type: none">・ゴミの分別、リサイクルなどの教育、地域清掃の取り組みを推進すること・リサイクル回収ボックスを置くこと・ポイ捨て禁止などの看板を見やすくすること

1 グループ【安心・安全】自転車の安全・安心について

- ・自転車の専用道を増やすこと
- ・カーブミラーを増やすこと

私たちは、「自転車の安全・安心」について提案します。

提案は2つあります。

1つ目は、自転車の専用道を増やすことです。

私は、ルールを守り、注意をして歩道を歩いていますが、歩道を通る自転車に気付きにくいいため、安全のために歩道と自転車道を分離してほしいです。

私は、犬の散歩をする時、歩道を歩くのですが、歩道を通る自転車が危ないと思ったので、同じように歩道と自転車道を分離してほしいです。

また、車道を自転車で走っている時に、トラックが来て、よけようと倒れそうになったので、自転車道は広くしてほしいです。

子どもは移動手段として自転車を利用することが多いですが、分離された自

転車通行帯があると安全です。

また、気を付けていますが、道路が舗装されていなかったり、凹凸が激しかったりするとバランスを崩しやすいので、走りやすいように道路の舗装もしてほしいです。

2つ目は、カーブミラーを増やすことです。

私は自転車の走行中は、カーブミラーで周りの安全を確認しています。信号機のない曲がり角は大変に危険なので、カーブミラーを設置してほしいです。理由は、カーブミラーがない曲がり角では、車、自転車、歩行者の姿が見えにくいので、自転車や歩行者の存在を知るためには、カーブミラーが一番良い手段だと思うからです。

2 グループ【遊び】公園の水飲み場について

- ・公園の水飲み場の数を増やすこと
- ・水道の蛇口を使いやすくすること

私たちは、「公園の水飲み場」について提案します。提案は2つあります。

1つ目は、公園の水飲み場の数を増やすことです。2つ目は、水道の蛇口を使いやすくすることです。

理由は、公園を使っている時に水飲み場がなかったり、水道の蛇口が使いづらかったりして困ったことがあったからです。

思い切り遊んでいる時に水分補給はとても大切だと思います。

水筒を持っていない時に、水飲み場がないと熱中症になってしまうかもしれません。自動販売機を使えばいいと思うかもしれませんが、子どもはお金を持っていません。水分を購入しなければペットボトルを使わずに、環境にもやさしいと思ったからです。

次に、子どもにとっては、水道の蛇口が使いづらいです。

子どもが水を飲みたい時に、水道の蛇口の高さが子どもにあっていないことがあります。

また、水道栓が取り外されていたり、栓が硬かったりして、使えないものがあります。栓をひねり続けないと水が出てこないものもあります。

私たちは、このような水道栓や蛇口を考えました。

1回押せば、何秒間か水が出る蛇口です。閉め忘れで、水が無駄にならないように自動的に止まるようになっていました。また、簡単に押せるようになっていました。

これは押している間だけ水が出る機械です。押していない時は水が出ないよ

うになっているので、水が出っぱなしになることはありません。
以上で私たちの提案を終わります。ありがとうございました。

3 グループ【交流・体験】体験学習をまとめる部署を設置し、体験できる機会を たくさん作ることにについて

- ・市内の体験プログラムを総括する部署を作ること（チラシやHPの作成、体験の企画）
- ・店舗での仕事体験や八王子の特徴を生かした体験会の内容の工夫をすること

私たちの提案は、子どもたちの体験学習をまとめる部署を作って、子どもたちが、市内で体験できる機会をたくさん作ることです。

今までに、体験学習をしたことがあっても、1回だけだったり、興味のある体験学習があっても、その体験学習をどこでやっているのかわからなかったりしました。もっと子どもたち自身が参加したい体験に参加できるようにしてほしいと思ったからです。

例えば、子どもが個人で申し込むことが難しい体験やプロ選手や講師に教えてもらえる体験教室、実際の店舗などでの就業体験など、子どもに興味があるが参加しづらいため、スムーズに参加しやすくする仕組みとして決まった部署があるといいと思います。

素敵な部署の名前が付けられるといいと思います。
仕組みが出来上がると、子どもは体験を通して将来のイメージや普段見ることが出来ない景色を見ることが出来るので、子どものミライに大きな手助けになるからです。

八王子には八王子にしかない産業や文化がたくさんあるので、プログラムの例として、八王子で有名な生糸の織物づくり体験、八王子にゆかりのある専門家による講演、八王子の有名な会社の見学などを行ってほしいです。
体験会に参加をして、子どもがもっと八王子が好きになって、八王子に住んでくれると思います。

普段体験できない、ペットショップの店員、調理師、学校の先生、ホテルマンなどの具体的な職業体験や八王子市の織物の仕事など、子どもにニーズも聴いてほしいと思います。

4 グループ【環境】ポイ捨てをなくしてきれいな八王子へ

- ・ゴミの分別、リサイクルなどの教育、地域清掃の取り組みを推進すること
- ・リサイクル回収ボックスを置くこと
- ・ポイ捨て禁止などの看板を見やすくすること

私たちの提案は3つあります。1つ目は、教育での対策の事です。

子どもの頃から、ゴミの分別、リサイクルなどの教育をさらに進めてほしいです。

具体的には、地域清掃を学校行事に加えてほしいです。なぜなら、土曜日、日曜日に地域清掃をやると参加しづらく、用事があって参加できない人がいると思ったからです。学校行事で行うと、多人数で参加することになるのでゴミをたくさん拾うことが出来て、ポイ捨てに対する子どもの意識が高まるからです。

2つ目は、リサイクルできるものを回収できるボックスを置いてほしいということです。

例えば、ポイントカードを作ってリサイクルできるものを捨てるごとにポイントが付くというシステムなどを作ってほしいです。

なぜなら、ポイ捨てをする人やリサイクルを面倒くさがる人でもポイントをもらえてお得という理由からリサイクルを心掛けてくれるようになると思ったからです。自分もいい気持ちになり、環境にも優しいので、一石二鳥です。

3つ目は、ポイ捨て禁止などの看板を見やすくしてほしいです。

なぜなら、看板はよく見かけるのですが、大切な文字が見えづらいことが多いからです。特に赤文字の部分が消えたりしていて見えづらいです。大切なことが書いてある赤文字の部分を書き直すことで、よりポイ捨て禁止を分かりやすく伝えることが出来ると思います。

このような3つのことを行うと、八王子がきれいなまちとして注目してもらええると思います。そうすれば、周りの地域もこうした取り組みに挑戦してもらええると思います。

【トピックス】

令和3年度（2021年度）「子ども☆ミライ会議」で子ども企画委員が提案した駄菓子屋の設置について、駄菓子屋の開設を予定していた団体「まほうのほうき」の運営者と子ども企画委員が意見交換を行いました。

子ども企画委員が提案した子どもが喜ぶ品揃えや低い商品棚の設置などの意見を反映して、大人も子どもも集まり楽しむことが出来る駄菓子屋「yottette（ヨッテッテ）」が令和4年（2022年）4月にオープンしました。

10 子ども企画委員の感想と代表のあいさつ

(子ども企画委員の感想)

*子ども企画委員の感想アンケートから抽出して記載しています。()は同意見の数です。

1. 参加した理由を教えてください。

- ・話し合ったりすることが、経験になると思ったから。
- ・八王子のミライを子どもが考えるということに関心を持ったから。
- ・内容がよかったから。
- ・親に教えられ、興味があったから。
- ・「ああならいいな」、「こうだったら住みよいな」ということがたくさんあったので、そのようなことを自分から市長に提案できるから。
- ・前回から参加していたから。
- ・チラシを見て楽しそうだったから。
- ・去年参加して楽しかったから。(2)
- ・去年も参加して、勉強になると思ったから。
- ・自分の意見を市長・教育長の前で言ってみたかったから。
- ・意見を言いたかったから。
- ・面白そうだったから。
- ・どういふことをしているか気になるから。
- ・母に誘われたから。図書カードがもらえるから。
- ・八王子について提案があったから。
- ・中1の頃から参加しているから。
- ・元々、目立つ事が好きだったから。
- ・お父さんに間違いなく、キャリアになると言われて興味を持ったから。

2. どのように「子ども☆ミライ会議」の子ども企画委員募集を知りましたか。

- ・学校からのチラシ (10)
- ・お母さん、お父さんが教えてくれました。(2)
- ・親に教えられた。(2)
- ・広報「はちおうじ」
- ・友人から誘われた。
- ・兄が昨年、参加していたから。

3. 「子ども☆ミライ会議」に参加した感想を自由に書いてください。

- ・13年間生きてきて「もっとこうなったらいいな」と思うことはよくありました。でもずっと誰にも言わずに生きてきました。でも今日思ったことを話し合い、工夫し発表することが出来ました。アンケートが褒められたのがうれしかったです。
- ・「自分たちの身は自分たちで守る」というように、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という感じで、八王子をよくするということはとても重要なことだと思いました。「よくする」でも多くの面で行くことが出来るので、これからは多くの面で議論したいです。
- ・面白くて、いい体験になりました。これからはずっと「子ども☆ミライ会議」を続けてほしいです。
- ・自分が思ったより本格的で緊張したけど、いい経験になりました。
- ・前回どおり、自分たちの意見をまとめて、市長・教育長に提案するということが出来てよかった。今回は、グループメンバー全員分の意見をまとめられるように努力したいです。今年もありがとうございました。
- ・学校が違う友達と意見交換をするのは楽しかった。親や校長先生がいて緊張したけれど、頑張れました。
- ・自分から主体的に八王子の事について考えられる機会になり、これからの学校での活動で役立ちそうだと思います。八王子市の課題を考え、市長・教育長に直接つたえられるのは、自分にとっても良い経験になりました。また、私が考えていた事以外の考えや意見を知ることができて、今まで考えてきた視点とは違う目線で考えられました。
- ・発表を緊張しないでする良い練習になりました。他の学年の子どもと話せて楽しかったです。考えを深められる良い機会になりました。
- ・なかなか市長・教育長と話す機会はないので、とてもいい経験になりました。
- ・同じグループの人で自分とは違う意見が聞けて、良い参考になりました。とても楽しかったです。
- ・私が言いたい意見を言えてよかった。知らなかったことが聞けて良かったです。
- ・貴重な体験が出来て良かったです。とても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・発表の原稿で、自分の意思を伝えるだけでなく、個人的に気になったことも聞くことが出来てうれしかった。
- ・いろいろな意見を知れたし、それについて一杯考えられたので、良かったです。
- ・難しい話もあったけど、八王子について考えられて楽しかった。
- ・八王子市の未来について提案することができて良かった。八王子市に提案した

事が現実になると嬉しい。

- ・今年が子ども企画委員として、参加するのが最後でさらに発表する内容がかなり変わったので、すごく緊張したけどしっかりやりきれたと思う。
- ・子どもが2040年の八王子がどのようなになっているといいのか、市長・教育長に直接話す機会はめったにないので、とても貴重な体験だと思った。
- ・市長・教育長に意見交流をしたりするのは初めてだったので、とても新鮮だった。良い経験になったと思うので、次の機会も参加したい。

4. 今後も「子ども☆ミライ会議」に参加したいと思いませんか。

- ・はい (12)
- ・2040年の八王子に向けて、これからも多くの面で議論したいと思います。
- ・今は、思う。
- ・もちろん！また、参加したいです！
- ・来年もそのあともやりたいです。
- ・子ども企画委員としては、今年が最後なので、今後は時間があればサポート側として参加したい。

(代表のあいさつ)

今回の子ども☆ミライ会議の参加している子ども企画委員を代表してあいさつを致します。

私は中学1年から子ども企画委員として子ども☆ミライ会議に参加をしています。私たちが住むまちについて考えることはとても大切なことだと思っているからです。

今回は、小学5年生から高校3年生の子どもが集まり、2040年の八王子のまちをイメージして意見と提案を致しました。市長・教育長は、私たちの意見と提案に真剣にこたえてくださいました。大変にありがとうございます。

子ども企画委員の一人ひとは、「八王子はわたしたちがつくるまち」との自覚をもって検討をして意見表明致しました。ぜひ、今後のまちづくりに意見と提案を活かして行ってほしいと思います。

これで、代表の挨拶を終わります。

11 子どもによる意見表明の各児童館の取り組み

～子どもの意見を尊重した児童館の取り組み事例～

児童館は、「児童の権利に関する条約」に掲げられた精神及び「児童福祉法」の理念にのっとり、子どもの心身の健やかな成長、発達及びその自立が図られることを地域社会の中で具現化する児童福祉施設です。

児童館は、あらゆる場面で最善の利益が保障されるように子どもの権利を大切にしている取り組みを進めています。

また、児童館は、子どもの年齢及び発達の程度に応じて子どもの意見が尊重されることを大切にし、活動や地域の行事に子どもが参加して自由に意見を述べるができるように子どもによる意見表明機会の提供に努めています。

子どもの自発的な活動を作り上げることができるように継続的に支援し、子どもの視点や意見を児童館の運営や地域の活動に活かしています。

「子ども☆ミライ会議」と児童館の居場所における意見表明機会の取り組みを毎年実施し、児童館の子どもの意見も「子ども☆ミライ会議」を通じて報告をしています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じるなかで、児童館の機能や役割が問われているだけに、遊びの保障や心地よい居場所づくりに工夫を行い、子どもが意見を述べる場の提供をできるように、職員が意識して取り組みをしてきました。子どもの意見を聴き、意見が反映された児童館運営や、遊びの場面の体験が積まれることにより、地域やまちへ対する子どもの参画意識も高まります。

児童館では、日常の子どもとの関わりの一場面を大事にして、遊びの提供や施設運営のルール作り、または実行委員活動などで子どもの意見を大切にしています。

令和4年度（2022年度）は、児童館の運営の中で、子どもの意見を尊重した児童館の取り組み事例を紹介します。

事例では、各児童館が以下の3点について意識をして取り組んだ記録を整理して紹介しています。

1. 子どもの意見を大切にした場面やその様子について
2. 子どもに接して子どもが意見を言いやすいように配慮したことについて
3. 子どもの意見を反映して実行した事柄について

子どもによる意見表明の各児童館の取り組み

～子どもの意見を尊重した児童館の取り組み事例～

児童館名 浅川児童館

題名 浅川中学校の「総合的な学習の授業」との連携／浅川児童館卓球大会

○浅川中学校の「総合的な学習の授業」との連携

浅川児童館を日常的に利用している、浅川中学校の3年生のグループから、「総合的な学習の授業で、SDGs や地域の歴史等について調べ学習を行いました。その成果を発表するために、児童館に協力してもらえませんか」と相談がありました。児童館を会場にして、自分たちで調べた内容を簡単なイベントを交えた形式で小学生に発表したい、ということでした。浅川児童館ではこれを受け、協力することにしました。どのような発表をしたいのかを意見を聴くと、小学生の時から児童館を利用している子どもがいて、「児童館で迷路のイベントがあったと思うのですが、その迷路を活用できますか」という意見が出ました。最終的には、規模を縮小した迷路の中で絵探しをする形式を取り、それを楽しむことで小学生に歴史武将を理解してもらおう、という方法を考えました。

発表当日、生徒達は、迷路の組立て・絵探しの準備・資料を用いた説明の練習にグループで一丸となって取り組み、発表が始まると緊張しながらも小学生に対し堂々と説明を行いました。



○浅川児童館卓球大会の開催

夏の児童館対抗卓球大会の中止を受け、参加予定だった小学生の意見を聴き、「館内でも卓球大会やりたい」の声を反映して実施しました。事前に子どもたちから、参加しやすい日程や納得しやすいルール(何点マッチか等)を聴き取り、大会に反映するようにしました。また、大会当日までに全体の練習日を数回設け、その中で子どもたち同士が大会に向けて気運を高められるよう、声かけ等を工夫しました。大会当日はそれぞれの練習の成果を発揮し、1試合ごとに白熱した戦いが行われていました。参加した小学生は、「練習してきた成果が発揮できて良かった」と感想を述べていました。



子どもによる意見表明の各児童館の取り組み

～子どもの意見を尊重した児童館の取り組み事例～

児童館名 中郷児童館

題名 子どもの思いを地域で実現

1. 子どもの意見を大切にした場面やその様子について

【地域のみんなで子どもの思いを聴く機会を創出】



中学生が地域に対して思っている「魅力」や「改善点」を、地域の関係団体や高齢者の方々と交流しながら聴く機会を設けました。多くの団体の協力のもと、アンケートなど文面では伝わらない感情の部分まで、世代を超えて伝え合うことができました。

2. 子どもに接して子どもが意見を言いやすいように配慮したことについて

【若者の活躍と事前ワークショップの実施】

普段体験することが出来ない環境の中で、中学生が緊張して発言出来ないことが予想されていたので、年齢の近い大学生が寄り添い、サポートしながら活動に取り組めるようにしました。交流会に唐突に参加するのではなく、「何を話すのか」「どのような内容なのか」など事前にワークショップを実施しました。



3. 子どもの意見を反映して実行した事柄について

【子どもの意見を地域づくりへ反映し、地域全体でイベントを開催】



交流会には地域づくり推進会議のメンバーも参加してもらい、直接子どもの思いを聴くことで今後の地域づくりに活かせるようにしました。交流会の中で、「多世代で楽しめるイベントしたい」という意見がありました。そこで地域住民、団体の協力のもと、「ながぶさこどもまつり」を実施しました。

子どもによる意見表明の各児童館の取り組み

～子どもの意見を尊重した児童館の取り組み事例～

児童館名 中野児童館

題名 インディアカの日

1. 子どもの意見を大切にした場面やその様子について

中野児童館では、昨年度、一部の高校生中心に「インディアカ」が流行していました。中心となっていた高校生が3年生だったため、今年度になり「インディアカ」をやる機会は、なくなってしまったのですが、今年度利用している高校生たちから「またインディアカができないか」という声があがりました。

2. 子どもに接して子どもが意見を言いやすいように配慮したことについて

中野児童館では、日常的に利用している高校生の発する発言をくみ取るように心がけています。今までも日常的なかかわりの中で、館内のルール決定や新しい行事についてなど、いろいろな意見を子どもたちから発してくれています。そういった子どもたちの発言を実現するために、どのようにすればいいのかを子どもたちと職員が一緒に考えます。結果的に実現には至らないこともありますが、意見を発し検討を重ねることで子どもたちも一定の理解はしてくれるようです。「インディアカをやりたい」という意見を大切にし、実現に向けて話し合いをしました。

3. 子どもの意見を反映して実行した事柄について

12月から月に1回、「インディアカの日」を設定することにしました。日にちを決める際、中高生が集まりやすいよう、月行事「フットサルをやろう（中高生タイム）」と連続して行うこととなり、高校生が中心となり取り組みました。

子どもによる意見表明の各児童館の取り組み

～子どもの意見を尊重した児童館の取り組み事例～

児童館名 南大谷児童館

題名 館内卓球大会

1. 子どもの意見を大切にされた場面やその様子について

南大谷児童館では、児童館対抗卓球大会に向けて子どもたちが練習に取り組んでいました。しかし、その卓球大会は中止になってしまいました。そこで、大会に向けて練習をしていた子どもたちの意見を聴き、館内で卓球大会を開催することにしました。

2. 子どもに接して子どもが意見を言いやすいように配慮したことについて

館内での卓球大会に向けて、参加する子どもたちは一生懸命練習に取り組みました。職員も練習相手となり、子どもたちとよく話をするようにしました。「何がしたいか」、「どう思うか」という問いかけには意見を述べるのが難しい子どももいるので、会話の中で気持ちをしゃべってもらえるように工夫しました。

その際には、職員の意見の押し付けにならないよう選択肢を複数提案したり、出てきた意見は実現が困難なものも含めて一旦受け止めてあげたり、子どもたちが安心して発言できるよう努めました。

3. 子どもの意見を反映して実行した事柄について

参加者を増やしたいという希望を受け、参加者を追加で募集しました。職員の呼びかけだけでなく、子どもたちも友達に声をかけ、参加者は増加しました。

大会の当日は、全員が真剣に勝負し、練習の成果を発揮しました。大会を通じてもっと卓球を頑張りたいと言う子どももいました。



子どもによる意見表明の各児童館の取り組み

～子どもの意見を尊重した児童館の取り組み事例～

児童館名 北野児童館

題名 手形で盛り上がり！ 児童館まつり&こどもシティ

児童館まつりに向けて、子どもたちが意欲的に参加できるよう、横断幕や店舗のぼりの作成に取り組みました。

今年度、北野児童館を利用が多いのは小学4年生です。4年生の子どもたちは、今まで開催していた児童館まつりのイメージがあまりわからない子どもが多いので、期待感を持たせるために職員がベースを準備し、後は子どもたちが自由に取組みめるよう配慮しました。

横断幕については、模造紙をつなげたものに行事名を書き、その空いたスペースに子どもたちが手形を付けることにしました。

職員が絵の具を3色用意した時点では、単色の手形をイメージしていましたが、手のひらに色を分けて塗る子、指1本ずつ違う色を付ける子、絵の具を付けない指を作る子…と



個々に楽しみながら取り組んでいました。

店舗のぼりについては、店舗名を白抜き文字にし、子どもたちにぬりえのようにクレヨンで色を塗ってもらいました。一文字の中に複数の色で塗る子・絵を描く子等、小学生ながらの発想で取り組んでくれました。中には「これを塗る

ことでどんな店があるかわかるから（取り組む）…」という子どももいました。

（※写真は「児童館・こどもシティ」への取り組みですが、「北野児童館こどもタウン」についても同様に取り組みました。）



子どもによる意見表明の各児童館の取り組み

～子どもの意見を尊重した児童館の取り組み事例～

児童館名 館ヶ丘児童館

題名 大きな行事での子ども実行委員会活動

令和2年度、3年度とコロナ禍で、館ヶ丘児童館では、大勢の子どもが集まる大きな行事がなかなか出来ませんでした。また、子どもたちが主体的に活動する実行委員会活動も行うことが出来ませんでした。

令和4年度は、消毒やマスクの着用、検温、換気、密を避けるなどのコロナ対策を取りながら、大きな行事が出来るようになりました。ミステリーハウス、ミニ夏まつり、館ヶ丘こどもタウン（台風で中止のために、じどうかん秋まつりに変更）では実行委員会活動を行い、子どもたちの意見を取り入れていく機会を設けることにしました。2年間、子どもたちが行事の準備や運営に関わる実行委員会活動の経験がないため、職員の提案の中から考えたり、好きなコーナーのお手伝いをしたりすることから始めていくことにしました。

7月のミステリーハウスでは、小学生高学年がコーナーを飾り、当日の受付係や出口係、お客さんを乗せるトロッコ係など、自分たちで工夫し担当を決めて、準備をしてくれました。

また、美術大学の学生に小学生がリクエストをして下絵を描いてもらい、色を塗って飾りました。中学生や高校生は、当日の運営を手伝ってくれ、ミステリーハウスを盛り上げてくれました。

ミニ夏まつり、館ヶ丘こどもタウン（じどうかん秋まつり）では、ゲームコーナーの看板を描き、ゲームのルールを考え、当日は担当コーナーでお客さんの対応をしました。中学生、高校生、大学生は、小学生のサポートをし、大きな荷物運びや天幕の設営などでも活躍してくれました。

今年度は行事のお手伝いから始めて活動を通して、少しずつ子どもたちの意見を活かしていく形でしたが、今年度の子どもたちの経験を次年度につなげていきたいと思えます。



子どもによる意見表明の各児童館の取り組み

～子どもの意見を尊重した児童館の取り組み事例～

児童館名 由木児童館

題名 おばけやしき

1. 子どもの意見を大切にされた部分からの展開

今年度、「おばけやしき」を4日間（1日3回で合計12回）実施しました。実行委員として小学3年生以上を募集したところ、20数名もの子どもが集まってくれました。受付とおばけ役などの実行委員の役割は、一人ひとりの意見を聴き、希望性で振り分けました。1回目の実施後、おばけやしきの参加者の反応を職員が確認し、それを実行委員に伝え、「2回目以降どうしようか」と問いかけました。すると、自然に上級生の誰かがリーダーになり、各実行委員の意見を聞き出し考えて尊重し、調整役になっていました。また、おばけやしきの会場内には各箇所におばけ役の隠れる場所があり、参加者が通過するとき、自由に表現できるようにしていますが、他の実行委員が見ていき過ぎの行為をした場合は、互いに注意し合っていました。4日目の最終日には、全役割を公平に行うなど、裏方にも真剣に取り組んでいる様子が見られ、大変充実したおばけやしきの行事が実施できました。

2. 子どもに接して子どもが意見を言いやすいように配慮したことについて

- ・通常の関わりの中で、自由な意見を言いやすい場を設けます。
- ・活動を行っている中で、その活動の良い部分、改める部分の意見を、さりげなく子どもに聴いています。
- ・子どもの意見を聴いて、「おばけやしき」という名称ではなく、リアルな怖さをイメージしない「ミステリーハロウィン」という名称にしました。

3. 子どもの意見を反映して実行した事柄について

- ・おばけやしきの実施
- ・児童館まつりの復活、児童館まつりのコーナーの内容に子どもの意見を採用
- ・「体を動かす遊び（どろけい、おにごっこ、ドッジボールなど）を楽しみたい」という意見を反映したチャレンジタイム、「スポーツを児童館より広い場所でやりたい」という意見を反映した「じどすぽ」（学校の体育館を借り、多種のスポーツを行う）の行事を実施
- ・工作の内容に子どもの要望を反映（スライム、プラバン、マジック工作など）

子どもによる意見表明の各児童館の取り組み

～子どもの意見を尊重した児童館の取り組み事例～

児童館名 松が谷児童館

題名 ミステリーめいろを成功させよう

「ミステリーめいろ」では、各エリアのテーマは職員が決め、そのテーマに沿ったものを、実行委員である子どもたちが自由な発想で作っていました。

例えば、「きょうふのやかた」エリアでは、子どもたちから「窓を作って、外が不思議な感じにしたい」、「絵をたくさん描きたい」と提案があり、それぞれが考える不思議な世界を描きました。「お墓」エリアでは、ブラックライトで部屋が光ると説明をすると、子どもたちは、まばゆいばかりの星空を作りました。



コロナ禍での「ミステリーめいろ」の開催となったために、クリアしなければならない条件もありました。「密を避ける」、「換気をする」、「大声を出さない」の3つです。(換気に関しては明るい中で窓を開けた状態に職員が設置)

上記の条件をクリアするための子どもたちの工夫は、「事前に説明をして大声を出さないようにしてもらおう」、「実行委員が案内係となり、少人数のグループごとに案内をする」というものでした。当日は、子どもたちの活躍により、対策をしながらお客さんに楽しんでもらうことができました。



子どもによる意見表明の各児童館の取り組み

～子どもの意見を尊重した児童館の取り組み事例～

児童館名 元八王子児童館

題名 キッズタウン（児童館まつり）

1. 子どもの意見を大切にした場面やその様子について

3年ぶりの開催となったキッズタウン（児童館まつり）では、小学校4年生以上の実行委員を募り、その実行委員が準備から当日のコーナー運営までを行いました。準備では、まず、子どもたちがやりたいこと（コーナー）を決めるところから始めます。職員は子どもたちの意見を受け止め、実現できるように支援を行いました。お店が決まった後は、「どのようなルールにしよう」など、お客さんを楽しませられるように子どもたち自身が考え準備を進めていきました。

その甲斐があり、当日参加したお客さんは、楽しそうにキッズタウンで過ごし、実行委員自身も充実感をもって取り組めていました。



2. 子どもに接して子どもが意見を言いやすいように配慮したことについて

職員は、楽しい雰囲気をつくること、子どもたちの意見を認めること（否定しないこと）、活動を褒めることで、子どもたちが主体的に取り組めるように配慮しました。



3. 子どもの意見を反映して実行した事柄について

子どもたちは、自分でやりたいことを決め、お客さんを楽しませる方法を考え、自分たちで協力して一つの行事を作り上げました。



子どもによる意見表明の各児童館の取り組み

～子どもの意見を尊重した児童館の取り組み事例～

児童館名 川口児童館

題名 季節を感じよう！「ディスプレイ委員」

1. 子どもの意見を大切にされた場面やその様子について

児童館の玄関にあるボードに季節に関するディスプレイを掲示しています。児童館職員が作成するのではなく、季節を感じ、少しでも味わってもらいたいと、子ども自身が児童館に来館し毎月に1枚作成しています。

2. 子どもに接して子どもが意見を言いやすいように配慮したことについて

作成する中で、子どもの考えていることや意見を聴いています。そうすることで、子どもの意見をディスプレイという形で表現できると考えています。子どもからは、「児童館を利用する人が自分達で作ったディスプレイを見て喜んでくれるとうれしい」、「ディスプレイを作成する活動を楽しみにしている」といった意見が出ています。



強制されるのではなく、自主的に楽しそうに児童館職員がゆったりと関わりながら、楽しみの1つとして完成を目指します。

担当する子どもは固定されているわけではなく、やってみたい気持ちを尊重して誰でもが参加できる状況にしています。

3. 子どもの意見を反映して実行した事柄について

ディスプレイ作成の当初は、来館したときに作成するという取り組みでしたが、自覚も生まれ、どのような構図や内容にするか子ども自身が提案するようになり、子どもの意見が強く反映されるディスプレイとなってきました。

自然と毎月のディスプレイ委員の活動となりました。

